

## 『名士列伝』写本群における運命の記述と細密画

— ボッカッチョの面前に出現した運命の女神の場合 —

轟 義 昭

### はじめに

6年余にわたる地道な調査のおかげで、354枚もの運命の細密画（彩飾画）<sup>1</sup>を見出すことができた。特に、四人の人像を配した車輪<sup>2</sup>，海に浮く車輪<sup>3</sup>，半人半獣の像を配した車輪<sup>4</sup>，機械仕掛けの車輪<sup>5</sup>，組み合わせ車輪<sup>6</sup>のような運命の車輪や『薔薇物語』『遍歴の騎士』『運命の変転の書』に見られる運命の住処<sup>7</sup>などは興味深い。このような運命の細密画と写本の記述との関係を一枚ずつ調査できたならば、素晴らしい論文ができるだろうと野心を抱いたことがある。この思いが35mmスライドあるいは白黒写真の形態による運命の細密画の複製収集に拍車をかけたことは間違いない。しかしながら、仏・伊・羅語の複雑な言語層の壁に遮られて筆者の力量では言語解読の限界を痛感せざるを得ない。このような実情から本稿では『王侯の没落』第六巻において「運命の女神がボッカッチョの面前に姿を現す」場面に着目した。

ボッカッチョの運命の女神は、彼の多彩な独創的発想のおかげで、ボエティウスの伝統的な手法とは異なる「怪物」とも言えるような女神像に変身し、寓意的にかなり成功をおさめた一例<sup>8</sup>となっている。彼の寓意描写は細密画家たちの創意工夫によってどのように描かれているだろうか。記述と画像のあいだにずれが生じているのだろうか。ずれが生じている場合、画家たちはどのような記述を構図の拠り所にしてしているだろうか。このような疑問をテキストの記述と「視覚言語」としての細密画を比較して解明しようとするのが本論の目的である。

### 1. 『名士列伝』写本群における運命の細密画

ここで『名士列伝』写本群とはボッカッチョの *De Casibus Virorum Illustrium* 写本、ロラン・ド・プルミエフェの仏語訳写本、リドゲイトの翻案『王侯の没落』写本を総称したものとす。これらの写本群のなかに運命の細密画が出るかどうかの確認作業は次の方法による。(1) 黒瀬氏の『中世ヨーロッパ写本における運命の図像集』<sup>9</sup>を初めとして、様々な文献に掲載された複製に基づく確認、(2) 各国の図書館・美術館所蔵の写本に関する目録と写本の来歴・内容等を解説した文献（カタログ）に基づく確認、(3) 各国の図書館員からの情報——運命の細密画の有無を尋ねた手紙——による確認、(4) Carla Bozzolo の仏語訳写本情報<sup>10</sup>と Vittore Branca の情報<sup>11</sup>をつき合わせて運命の女神を描いた細密画が有り得るかどうかの確認。

このような方法によって確認作業に着手し、(1)の方法で57点、(2)の方法で17点、(3)の方法で6点と【資料1】に挙げた80点を見出したが、筆者の力量不足から確認が十分であったとは言い難い。しかしながら、【資料1】はこの写本群に関する情報発信源として貴重な役割を果たしていることと思う。この表のなかにはボッカッチョの原典に描かれた運命の細密画は見られない。ロー

ゼンバツハ博物館・図書館 MS. 439/16, folio 146<sup>vo</sup>とハンティントン図書館 MS. HM 268, folio 43<sup>vo</sup>の2枚だけがリドゲイトの『王侯の没落』写本に出る細密画で、残りはすべて仏語訳写本に出る細密画である。

## 2. 運命の女神の容姿描写に関するテキストの比較

1節で述べたように、『王侯の没落』写本にも運命の細密画が認められるので、原作者の記述と仏訳者の記述に加えてリドゲイトの記述も考慮せねばなるまい。【資料2】を参照しよう。これは第六巻を書き始めようとしていたボッカッチョの面前に姿を見せた‘horridum monstrum’とも言える運命の女神の背丈・姿・目・髪の毛・手と腕・衣装・足などの様相が記された原典の箇所である。【資料3】と【資料4】はそれに相当するプルミエフェの仏語訳とリドゲイトの翻案の箇所である。背丈・姿・目などの9項目に関する運命の容姿描写が比較できるように【資料5】の表に整理してみた。

総合的に判断すれば、この女神像の特徴は「両目は煌めいて威嚇的で、顔は厳しく、髪の毛は長く、百本の手と腕があり、様々な色から成る衣装を纏っている」様相となる。ただし、リドゲイトの描写において「異様な姿」が左右に分裂している姿となっている点や「様々な色から成る」が薄い空色、うすぼけた金色、薄緑、薄赤色、白色、うすぼけた黒、あずき色の7色から成るとされている点など、彼の具体的な配慮に多少の相違が認められる。

彼女の容姿に関しては、『王侯の没落』のなかに興味深い記述が見られる。一つは運命の女神がボッカッチョに口を切る直前の描写である。

(1) *hec in me defixis luminibus inquit...*<sup>12</sup>

(2) *elle fischa ses yeulx enuers moy et me dist. O Iehan Boccace...*<sup>13</sup>

(3) *Lookyng a-scoign as she had had disdeyn,*

*"Bochas," quod she,... (VI. 85-86)*<sup>14</sup>

(1) の原典は「運命の女神は私（ボッカッチョ）に目を据えて言いました...」という意味になる。

(2) の仏語 ‘*fischa ses yeulx enuers moy*’は原語の ‘*in me defixis luminibus*’に相当し、訳は「彼女は私に目を凝らして語りました。おお、ジョン・ボッカッチョよ....」となり、原典にはほぼ忠実である。他方、リドゲイトの翻案においては‘*Lookyng a-scoign*’と記述されているので、彼の描いた運命の女神は高飛車に出てボッカッチョを「横目で見て」いることも判明する。

もう一つは運命の女神がボッカッチョの面前から去って行く場面である。

(4) *Fineque verborum facto in liquidum aera euanuit.*

(5) *Si tost que Fortune eut finees ses parolles elle se eslanca et esuanouit en  
lair cler & luyant/*

- (6) These woordes saide, Fortune made an eende;  
She beet hir wynges & took hir to the fliht:  
I cannat seie what weie she dede weende,  
Sauf Bochas tellith, lich an aungel briht  
At hir partyng she shewed a gret liht. (VI.981-985)

‘euanuit’ は‘evanesco’の完了形で‘vanish’ ‘disappear’を意味するので、(4)の原典は「話が済むと、運命の女神は明るい空に消え去りました」という意味になる。(5)において原語‘euanuit’に相当する仏語は‘esuanouit’である。この語彙も比喩的には同じ意味なので、訳は「彼女は語り終えると、明るく輝く空に舞い上がって消え去りました」<sup>15</sup>となり、原典にほぼ忠実である。他方、リドゲイトの翻案の982行目には‘She beet hir wynges & took hir to the fliht’「羽ばたいて去って行きました」と記述されている。我々は‘beet hir wynges’の語彙から原語‘euanuit’と仏語‘esuanouit’からは読み取れない「運命の寓意」を見出せる。即ち、彼の描いた運命の女神には「翼」が存在するということである。

### 3. 細密画に描かれた運命の女神の様相

ボッカッチョの面前に出現した運命の女神の細密画は全部で28枚見出せたが、サザビー競売1963年12月9日 No.145, folio 137は如何なる形態の複製でも確認できなかったので、サンプルは27枚とする。この27枚を調査して運命の女神の姿・目・顔・髪の毛・手と腕・衣装の色・足の7つの様相とその他の特徴について整理したのが【資料6】である。

姿について：「異様な姿」かどうかの判断は絵の鑑賞者が姿全体から受ける印象に基づくべきであろうが、ここではアウグスト侯爵図書館MS. Guelf.A.3.Aug.2<sup>0</sup>, f.208などの6枚に見られるような特徴——身体が色の相違によって左右に分裂している点と下半身が消えて上半身像しか見えない点——を特に図像的に「異様な姿」とみなして表のなかに記した。

目について：運命の女神が布で目隠しされるという伝統的な手法はパリの国立図書館MS. Fr. 130, f.233<sup>vo</sup>などの3枚だけである。大半の絵において彼女はボッカッチョに視線を向けている。その中には彼を横睨み・藐睨みしている構図もある。残念ながら、それらの両目が「煌めいている」ようには見えない。

顔について：「表情がかたい」とか「表情が穏やか」とかの判別は画家のタッチを見た筆者の主観によるもので、なかには的を得ていない解説があるかもしれない。注目すべきは白い顔と黒い顔の異なる二つの顔を持つ運命の絵である。伝統的な手法であるが、4枚のうち2枚は白い方を、2枚は黒い方をボッカッチョに向けている。

髪の毛について：大半の絵において彼女の髪の毛は長く肩や腰の辺りまで垂れているが、彼女が帽子を着用しているために髪の毛が見えない構図（アルセナル図書館MS. 5192, f.188<sup>vo</sup> など5枚）や髪が結われている構図（アルセナル図書館MS. 5193, f.229 など3枚）もある。前者につ

いては髪の毛はないと判断せざるを得ない。因に、髪が結われている構図の共通点は彼女が王冠を被っていることにある。

手と腕について：ジュネーブ大学図書館MS. Fr.190, f.30<sup>vo</sup>のように十三本の手と腕が数えられる構図もあるが、全体としては伝統的運命の特徴である二本の手と腕が一番多く13枚もある。注目すべきは画家の工夫が認められる珍しい構図である。パリの国立図書館MS. Fr. 230, f.156では肘の部分から六本に分かれ、サント＝ジュヌヴィエーヴ図書館MS. 1128, f.196 では腕が二本なのに衣装全体に十本の手が散らばり、ローゼンバッハ博物館・図書館MS. 439/16, f.146<sup>vo</sup>では腕が二本なのに数多くの手がある。

衣装について：2色以上で描かれているものを「多色」とすれば、白黒写真による確認のために識別不可能な2枚（Thompson XCI, f.170<sup>vo</sup> と Kettaneh Collection）は別にして、大半は多色からなっている。このなかで注目すべきはパリの国立図書館MS. Fr.127, f.184 などの5枚に見られるような横縞模様からなる構図である。単色だけからなる絵も3枚ある。パリの国立図書館MS. Fr.130, f.233<sup>vo</sup> は赤色、同図書館MS. Fr.16995, f.196<sup>vo</sup> は薄紫色、モーガン図書館 MS. M. 343, f.35 は上空の色に同化した青色である。また、ローゼンバッハ博物館・図書館 MS. 439/16, f.146<sup>vo</sup> では衣装を纏っているようには見えない。

足について：パリの国立図書館MS. Fr.130, f.233<sup>vo</sup> とローゼンバッハ博物館・図書館MS. 439/16, f.146<sup>vo</sup> では両足の存在が確認できるが、その他の絵では長い衣装に隠れて運命の女神に足があるかどうかは不明である。

その他の特徴：アルセナル図書館MS. 5193, f.229 などの3枚には女神の背中に翼があり、パリの国立図書館MS. Fr.16995, f.196<sup>vo</sup> などの5枚には彼女の近くに車輪が置かれている。

#### 4. 運命の女神に遭遇するボッカッチョに関するテキスト記述の比較

記述と画像のずれを考察する場合、細密画の構成要員であるボッカッチョにも着目しておく必要があるだろう。【資料2】【資料3】【資料4】のなかで彼の様相を述べた記述を抜き出して描写素材を確認したい。

原典 ( <i>De Casibus</i> )	その仏語訳	翻案 ( <i>Fall of Princes</i> )
		*In his studie allone (l.1)
		*Bochas pensiff stood sool in his librarie (l.15)
*Mihi post pausillem requiei iam calamum resument	*ie qui mestoye vng tantet repose prenoye ma plume	*His penne on honde (l.2)
*O Deus bone,...!	*escriay a dieu qui est le donneur des vrays biens	
*prospiciens timui	*ie eux grant paour	*Bochas astonid, feerful for to abraide (l.22)

仏語訳は原典にある3つの素材をほぼ忠実に取り込んでいる。(1) 暫く休息した後、第六巻を書き始めようとペンを手にしている、(2) 真の物質を施す主なる神に救いを求めて叫んでいる、(3) 運命の女神を見た時、恐怖を感じている。他方、翻案には「善なる神に叫ぶ」という素材は省かれているが、「一人書斎にいて物思いに耽っている」という素材が追加されている。

このようなボッカッチョの描写素材から想像できる可能な「読み」を考えておこう。仏語訳に頼る場合はどうか。(1) から彼は椅子に腰掛けて書き物机に向かっていると思われるし、机の上には写本(書物)が開かれている筈である。この時、彼が書斎で仕事をしているかどうかは定かでない。(2) から彼は神に両手を合わせてあるいは手を差し出して祈る姿勢を取っていると思われる。(3) から彼の表情は強張っていると思われる。ことによると、彼女に驚いて椅子の上で反り返っているかもしれない。では翻案に頼る場合はどうか。彼は書斎に一人である訳だから、構図上は彼と運命の女神以外に誰もいないことになる。この時、ペンを手にしているが、机に向かって腰を下ろしているかどうかは不明である。驚いているので、上述の(3)の「読み」と同様である。

## 5. 細密画に描かれたボッカッチョの様相

4節での考察を念頭に置いて細密画に描かれたボッカッチョの様相を調査したい。(1)「第六巻を書き始めようとしている」訳だから、次の四つの条件を満たしているかどうかを確認する必要があるだろう。即ち、椅子があり、彼がそこに座っているかどうか。書き物机があるかどうか。その上に写本が開かれているかどうか。ペンを手にしているかどうか。(2)「主なる神に救いを求めて叫んでいる」訳だから、祈りのポーズを取っているかどうか。(3)「運命の女神を見た時」とあるので、彼女に視線を注いでいるかどうか。(4)彼女を見て「恐怖を感じている」かどうか。感じている場合、どのような仕草を取っているか。(5)彼は何処にいるか。これ以外に、(6)運命の女神が出現した瞬間だけでなく、その後の対談への配慮もあるかどうか調査対象となる。

このような点に着目して整理したものが【資料7】である。残念ながら、27枚の絵すべてに共通する描写素材は認められない。画家たちは幾つかの素材を組み合わせて創意工夫を凝らしているようである。例外も有り得るが、大ざっぱに分類すると、運命の女神が出現した瞬間を描いたもの、運命の女神が出現した瞬間を描いたもの+その後の対談を配慮したもの、その後の対談を重視したものの3つに整理できる。

運命の女神が出現した瞬間を描いたもの(13枚)：MS. 5193, MS. Fr.130, MS. Fr.16994, MS. Fr.16995, MS. Fr.191, MS. Royal 20 C IV, MS. G.35, MS. M.343の8枚。ここに該当するこれらの絵にはボッカッチョが椅子に座っている、書き物机があり、その上に写本が開かれている、ペンを手に所持しているあるいは机の上に筆記用具の入った袋とインク壺が置かれているという素材の共通点が認められる。このなかで写本に視線を向けて物語を書く姿勢を取っているMS. Fr.16995がこの範疇に属するかどうかは些か疑問が残る。この他、上記の共通素材のなかでペンを所持する替わりに左手を胸に当てて祈る姿勢を取っているMS. Fr.127、運命の女神の出現に驚いて両手を広げた格好をしているMS. Fr.597、彼女の出現に驚いて椅子の上で少し反り返ってい

るKettaneh Collection写本,「肘を付いて物思いに耽る」姿勢を取っている『王侯の没落』写本MS. 439/16, それに彼女の出現に驚いて椅子の上で反り返ったために(膝の上に置かれていたと思われる)写本が床に落ちているMS. Fr.230もこの範疇に入るだろう。

運命の女神が出現した瞬間を描いたもの+その後の対談を配慮したもの(4枚) : MS. 1128, MS. Harley 621, Thompson XCI写本の3枚。ここに該当するこれらの絵には前述の共通素材に加えて, ボッカッチョが運命の女神に左手を向けているあるいは相手に見解を述べる時にする手の所作を取っているという素材の共通点が認められる。この他, この範疇の共通素材のなかでペンを手に所持する替わりに腕を組んで相手の話を聞く姿勢を取っているMS. Gall.6もここに属するだろう。

その後の対談を重視したもの(9枚) : MS. 5192, MS. Fr.229, MS. Guelf A.3.Aug.2<sup>0</sup>, MS. Fr. 190, MS. 208, MS. 372, MS. Add.35321の7枚。絵のなかに椅子があろうとなかろうと, 書き物机があろうとなかろうと何ら関係がない。また, ボッカッチョが椅子に座った姿勢であろうと立った姿勢であろうと関係がない。ここに該当するこれらの絵には写本が見られないことと彼がペンを所持していないという二つの要素に加えて, 彼が運命の女神に右手の人差し指を向けているあるいは両手を上げて相手に見解を述べる時にする手の所作を取っているという素材の共通点が認められる。この他, 椅子に座り, ペンを所持しないで書き物机に開かれた写本の上に固く握り締めた右手と相手に見解を述べる時にする所作を取った左手を置いているMS. Royal 14 E Vと椅子に座って左手に開かれた写本を持ち, ペンを運命の女神に奪われて右手の人差し指を彼女に向けているMS. Rosenwald Collection写本が例外としてこの範疇に属するだろう。

上記の何れにも分類できないのがMS. HM 936である。これは椅子も書き物机もない部屋のなかにボッカッチョがペンを所持せずに立っている絵で, 対談を配慮した構図であるが, 彼が運命の女神と対談しているようには思えない。手の所作を見ると, 両手を合わせて祈る姿勢を取っているので, どちらかと言えば, 彼女の出現に驚く瞬間を表している構図である。

## 6. テクストの記述と細密画の関連性

まず運命の女神の容姿について考察しよう。2節と3節での分析を基に画家たちがどのような寓意素材を取捨しているかを識別できるように【資料8】を作成した(表を見る場合には下に記した注意事項を参照してもらいたい)。×印が多くなればなるほど, テクストの記述と細密画との関連性が薄いことを意味する。即ち, テクストの語彙と画像のあいだにずれが生じていることになる。ここでは一枚一枚の結果を解説するつもりはない。注目すべき点だけを記そう。

(1) 「髪の毛が長い」「衣装が多種の色から成る」の二つがボッカッチョの運命の女神を描く場合に一番多く採用されている寓意要素である。

(2) パリの国立図書館 MS. Fr.230, f.156; バイエルン州立図書館 MS. Gall.6, f.200<sup>vo</sup>; 大英図書館 MS. Royal 20 C IV, f.198; ワシントン国会図書館 MS. Rosenwald Collection No. 427, f.176<sup>vo</sup> の4枚はテキストの記述の「逐語的図解」の役割を果たしている。

(3) アルセナル図書館 MS. 5192, f.188<sup>vo</sup>；パリの国立図書館 MS. Fr.130, f.233<sup>vo</sup>；同図書館 MS. Fr.16995, f.196<sup>vo</sup>；ハンター博物館 MS. 372, f.1 の4枚は第六巻においてボッカッチョの面前に運命の女神が出現したという「視覚的説明」を読者には提供しているが、彼の描く「女神」像とは程遠い。

(4) ローゼンバッハ博物館・図書館の『王侯の没落』写本に出る細密画はテキストの「逐語的図解」とは言い難いにしても、テキストの記述との関連性は極めて強い。特に左右に分裂した姿と異様な程の手の多さが「怪物」のような存在に変身した女神像の実体を大いに印象づけ、ことによると我々読者を一番ぞっとさせるかもしれない。

(5) 顔の表情が総体的に穏やかに描かれる傾向が認められる。このためにパリの国立図書館 MS. Fr.127, f.184；同図書館 MS. Fr.229, f.221；同図書館 MS. Fr.16994, f.195<sup>vo</sup>；サント＝ジュヌヴィエーヴ図書館 MS. 1128, f.196；大英図書館 MS. Royal 14 E V, f.291は顔の表情の点で記述と画像のあいだでずれが生じているようであるが、その他の寓意要素からこの5枚はテキストが伝達する記述のほぼ「逐語的図解」の役割を果たしていると考えても差し支えあるまい。

次にボッカッチョの様相について考察しよう。4節と5節での分析を基に画家たちがどのような描写素材に着目しているかを識別できるように【資料9】を作成した。運命の女神の考察と同様に×印が多くなればなるほど、テキストの記述と細密画との関連性が薄いことになる。ただし、図像生成の過程において「ペンを手に所持」「祈る姿勢」「驚きの反応」の素材はいずれかを選択する余地が画家たちに残されているので、運命の女神が出現した瞬間を描いた構図のなかで「ペンを手に所持」に見られる×印が必ずしも記述と画像のずれを表すものではないことを把握しておいてもらいたい。ここで注目すべき点は次のとおりである。

(1) すべて○印のMS. Fr.130, MS. Fr.16994, MS. Fr.191, MS. Royal 20 C IV, MS. M 343, MS. 1128, Thompson XCIの7枚は描写に多少の差異は認められるものの、テキストの記述の「逐語的図解」の役割を大いに果たしている。

(2) 運命の女神が出現した瞬間を描こうと意図された構図のなかで「ペンを手に所持」の素材に×印が見られるものがあるが、MS. 5193, MS. Fr.127では「祈る姿勢」を取る素材、MS. Fr.230, MS. Fr.597, Kettaneh Collection 写本では「驚きの反応」を示す素材が採用されているので、これらもテキストの記述の「逐語的図解」の役割を果たしている。

(3) 運命の女神とボッカッチョの対談を重視しようと意図された構図ほど記述と画像のずれが目立つ。特に、MS. Fr.229, MS. 208, MS. 372, MS. Add.35321 の4枚はテキストの語彙から遠ざかり逸脱の度合いが大きい。

では運命の女神の容姿とボッカッチョの様相を総合的に判断した場合はどうであろうか。上記の分析からMS. Fr.230, f.156 と MS. Royal 20 C IV, f.198 の2枚だけが運命の女神の容姿とボッカッチョの様相の素材を余すところなく採用しているようなので、第六巻の出だしに字義通りに呼応する細密画と言えるだろう。興味深い細密画は一方に重点を置いたMS. Fr.130, f.233<sup>vo</sup> とMS. Fr.229, f.221 の2枚である。前者ではボッカッチョの様相は「逐語的図解」の役割を果

たしているのに運命の女神の容姿がかなり改変されてしまっている。後者では運命の女神の容姿はほぼ「逐語的図解」の役割を果たしているのに対談場面の構図のためにボッカッチョの様相が出だしの記述から逸脱してしまっている。他方、記述の素材を最小限に採用して創出されたかのような印象を与える細密画はMS. 372, f.1である。背景に描かれた騎士団の行進に力点が置かれているようであり、特にボッカッチョと対談している運命の女神像は伝統的手法の域を脱していないので第六巻の出だしの視覚的な解説としては物足りない。背景と言え、MS. M 343, f.35 に触れない訳にはいかないだろう。この絵はボッカッチョの面前に出現した運命の女神という設定はクリアしているが、本来あるべき姿から切り離されて別物に転換されたもののように感じさせる。その要因はボッカッチョが小高い緑の丘の中腹にいて空中に浮かぶ運命の女神を見る構図が脇役となり、動物の口から出る地獄の炎のなかに人間が悪魔によって投げ込まれる描写を初めとして、騎士たちが槍を手にして馬上で争う様子、王侯を殺害する様子、火炙りの刑・釜ゆでの刑・絞首刑などの付加的イメージが細密画全体に配置されていることによる。

以上のようにテキストの記述と「視覚言語」としての細密画を比較検討してみると、記述と画像のあいだのずれが鮮明に浮かび上がる。テキストの記述の意味が全く吟味されることなく画像が創出されているものもあるし、背景に力点が置かれて「運命の女神がボッカッチョの面前に出現する」というモチーフが自由に解釈され、テキストの記述と画像の結びつきが緩やかなものもある。なかには、大英図書館MS. Add.35321, f.180とハンター博物館MS. 372, f.1を比較するとわかるように、ある構図の型を受動的に模倣していると思わせるものもある。

## 結び

本論のなかでボッカッチョの運命の女神を描いた図像には「髪の毛の長い運命」「横縞模様の衣装を纏った運命」「半身像の運命」「右半分が白く左半分が黒い運命」「白と黒の異なる二つの顔を持つ運命」があることを指摘した。このような運命は、『名士列伝』写本群のほかに見出される運命の細密画の複製を調査すると他の作品群のなかにも数点見られるので、<sup>16</sup> 必ずしも彼の運命像の図像的特徴ではないことは一目瞭然となる。「ボッカッチョの運命の女神像の決め手は何だろうか」と問われたならば、細密画の全般的な調査を拠り所にして間違いなく「本数が増加した手と腕」であると筆者は主張するだろう。この寓意素材こそが彼の描く運命の女神像の生命線なのである。従ってこの素材が欠如している図像が第六巻の出だしの場面の視覚的説明としての重責を果たしているかどうか疑問が残る。



注

\*本稿は日本英文学会第48回九州支部大会（1995年10月22日，宮崎大学にて開催）のシンポジウム「イギリス文学を主とする異界描写」で口頭発表した原稿を草案として大幅に加筆修正したものである。

- 1 354 枚とは黒瀬氏の『図像集』に掲載された190 枚の運命の細密画の複製，筆者が35mmスライドあるいは白黒写真の形態で収集した146 枚の複製と幾つかの文献で確認できたのにその複製を獲得できないでいる18枚の総計である。文献に基づく文字情報を加えれば枚数はさらに増える。
- 2 例えば，London, British Library MS. Harley 3577, folio 167<sup>vo</sup>; Brussels, Bibl. Royal MS. 9392, folio 77<sup>vo</sup>; Paris, Bibl. Nationale MS. Fr. 1098, folio 20<sup>vo</sup>などを参照。
- 3 例えば，British Library MS. Cotton Tib. A. VII, folio 59<sup>vo</sup>を参照。
- 4 例えば，Vienna, Österreichische Nationalbibliothek MS. 2608, folio 10<sup>vo</sup>; Paris, Bibl. de l'Arsenal MS. 5192, folio 1<sup>vo</sup>などを参照。
- 5 例えば，Paris, Bibl. Nationale MS. Fr. 1586, folio 30<sup>vo</sup>を参照。
- 6 例えば，Paris, Bibl. Nationale MS. Fr. 1584, folio 297; New York, Pierpont Morgan Library MS. 396, folio 175などを参照。
- 7 『薔薇物語』写本ではCambridge, Fitzwilliam Museum MS. 169, folio 32; Valencia, Biblioteca de la Universidad MS. 387, folio 42<sup>vo</sup>; Oxford, Bodleian Library MS. Douce 371, folio 40<sup>vo</sup>, 『遍歴の騎士』写本ではParis, Bibl. Nationale MS. Fr. 12559, folio 118<sup>vo</sup>, 『運命の変転の書』写本ではMunich, Bayerische Staatsbibliothek MS. gallicus, 11, folio 13; The Hague, Koninklijke Bibl. MS. 78 D 42, folio 13などを参照。
- 8 チャップマンの『ビュッシー・ダンボア』に描かれた運命の女神もこの一例である：

The rude Scythians

Painted blind Fortune's powerful hands with wings,  
To shew her gifts come swift and suddenly,  
Which if her Favourite be not swift to take,  
He loses them for ever. (I.i.113-17)

ここでは肩に翼を持つ伝統的運命の寓意が作者の斬新な発想によって手に小翼を持つ寓意になっている。黒瀬保氏によると，一つの神型<sup>タイプ</sup>が他の神型<sup>タイプ</sup>と接触すると寓意因子の組み替えが進み，その結果，自然な組み替えもしくは人工的操作による組み替えで新種の神型<sup>タイプ</sup>が生まれるらしい。このような場合，寓意的に成功をおさめた例となる。この理論については，日本英文学会第64回大会（1992年5月24日，西南学院大学にて開催）で読まれた論文「神型論<sup>タイプ</sup>・擬似遺伝子組み換え論——運命の寓意変化の場合——」のコピーを参照するとよい。

- 9 黒瀬保編著『中世ヨーロッパ写本における運命の女神図像集』（三省堂，1977年）。英文タイ

トルは *Miniatures of Goddess Fortune in Mediaeval Manuscripts* である。

- 10 Carla Bozzolo, *Manuscripts des Traductions Françaises d'Oeuvres de Boccace: XV<sup>e</sup> Siècle* (Padova, 1973).
- 11 Vittore Branca, "Un Primo Elenco di Codici Illustrati di Opere del Boccaccio," *Studi sul Boccaccio* 15 (1985-86), 121-148.
- 12 Giovanni Boccaccio, *De Casibus Illustrium Virorum* (Florida: Scholars's Facsimiles & Reprints, 1962), p. 141. 以下, 原典 *De Casibus* からの引用はすべてこの版による。
- 13 Henry Bergen, ed., *Lydgate's Fall of Princes Part IV* (The Early English Text Society, E.S.124), p. 246. 以下, 仏語訳 *Des Cas* からの引用はすべてBergenが取り上げた箇所による。
- 14 Henry Bergen, ed., *Lydgate's Fall of Princes Part III* (EETS, E.S.123). 以下, 翻案『王侯の没落』からの引用はすべてこの版による。本文にあるローマ数字はBook番号である。
- 15 形容詞 'cler & luysant' がすぐ前の 'lair' でなくて主語の 'elle' を修飾していると解釈するならば, 「彼女は空中に舞い上がり消え去りました, 明るく輝きながら」という訳になる。
- 16 例えば, 「髪の毛の長い運命」の用例として British Library MS. Add. 39658, folio 1<sup>vo</sup>; Baltimore, Walters Art Gallery MS. W. 318, folio 1, 「横縞模様の衣装を纏った運命」の用例として The Hague, Meermanno-Westreenianum Museum MS. 10 A 17, folio 244; Paris, Bibl. de l'Arsenal MS. 5202, folio 41, 「半身像の運命」の用例として Paris, Bibl. Nationale MS. Fr.25, folio 161; British Library MS. Add. 21602, folio 23, 「右半分が白く左半分が黒い運命」の用例として Paris, Bibl. Nationale MS. Lat. 6643, folio 76; Chantilly, Musée Condé MS. 494, folio 16, 「白と黒の異なる二つの顔を持つ運命」の用例として Paris, Bibl. Nationale MS. Fr. 24307, folio 35<sup>vo</sup>; MS. Fr. 809, folio 40などを参照。

(1996年8月30日受理)

■ 『名士列伝』写本群における運命の記述と細密画

【資料1】『名士列伝』写本群のなかで見出される運命の細密画

Library & Museum	Frontis- piece	Strife between Fortune and Poverty	Fortune appeared before Boccaccio	Others
Vienna (Austria) Österreichische Nationalbibliothek MS. S. n. 12766 (311-48)		f. 72 <sup>vo</sup>		
Bergues (France) Bibliothèque Municipale MS. 63 (P. 89, Lepreux 5)				f. 77
Carpentras (France) Bibliothèque Municipale MS. 622 (L. 593)				f. 136
Musée Condé MS. 858 (487) MS. 860 (401)	f. 1	f. 76		
Paris (France) Bibliothèque de l'Arsenal MS. 5191 MS. 5192 MS. 5193	f. 1 <sup>vo</sup>	f. 53 <sup>vo</sup> f. 72 <sup>vo</sup> f. 88	f. 188 <sup>vo</sup> f. 229	
Paris (France) Bibliothèque Nationale MS. Fr. 127 MS. Fr. 130 MS. Fr. 131 MS. Fr. 132 MS. Fr. 226 MS. Fr. 229 MS. Fr. 230 MS. Fr. 233 MS. Fr. 597 MS. Fr. 16994 MS. Fr. 16995	f. 1     f. 1 f. 1 <sup>vo</sup>  f. 1	f. 71 f. 88 f. 71 <sup>vo</sup> f. 42 <sup>vo</sup> f. 62 <sup>vo</sup> f. 84 f. 61 f. 65 f. 38 f. 76 <sup>vo</sup> f. 73 <sup>vo</sup>	f. 184 f. 233 <sup>vo</sup>   f. 221 f. 156  f. 96 <sup>vo</sup> f. 195 <sup>vo</sup> f. 196 <sup>vo</sup>	f. 45    f. 12 <sup>vo</sup> f. 38 <sup>vo</sup>
Paris (France) Bibliothèque Saint-Geneviève MS. 1128			f. 196	
Rouen (France) Bibliothèque Municipale MS. 1440 (U. 25)		f. 67		
Munich (Germany) Bayerische Staatsbibliothek MS. Gall. 6 (Gall.369)	f. 4	f. 81	f. 200 <sup>vo</sup>	
Wolfenbüttel (Germany) Herzog August Bibliothek MS. Guelf. A. 3. Aug. 2 <sup>o</sup>			f. 208	
Venezia (Italy) Biblioteca Nazionale Marciana MS. Fr. Append 44 (10138)	f. 1			

Geneva (Switzerland) Bibliothèque Universitaire MS. Fr. 190 (Petau 187) MS. Fr. 191 (Petau 188)		f. 83 f. 72	f. 30 <sup>vo</sup> (Vol. II) f. 181 <sup>vo</sup>	
Zurich (Switzerland) vente Hoepli du 29 oct. 1973 n° 23 ex H.Y. Thompson XCI		f. 65	f. 170 <sup>vo</sup>	
Glasgow (U.K.) Hunterian Museum MS. 208 (U. 1. 12) MS. 371 (V. 1. 8) MS. 372 (V. 1. 9)	f. 1	f. 95 <sup>vo</sup> f. 69 <sup>vo</sup>	f. 218 <sup>vo</sup> f. 1	
London (U.K.) British Library MS. Additional 11696 MS. Additional 35321 MS. Harley 621 MS. Royal 14 E V MS. Royal 18 D VII MS. Royal 20 C IV	f. 1	f. 71 f. 67 f. 71 f. 113 <sup>vo</sup> f. 52 f. 77 <sup>vo</sup>	f. 180 f. 217 f. 291 f. 198	
London (U.K.) vente Sotheby du 9 décembre 1963 n° 145		f. 55	f. 137	
Oxford (U.K.) Bodleian Library MS. Bodley 265 (2465)		f. 73 <sup>vo</sup>		
New York (U.S.A.) Collection Francis Kettaneh		f. 63	not foliated	
New York (U.S.A.) Pierpont Morgan Library MS. G. 35 MS. M. 342 MS. M. 343		f. 79 <sup>vo</sup> f. 77	f. 205 f. 35	
Philadelphia (U.S.A.) Rosenbach Museum & Library MS. 439/16			f. 146 <sup>vo</sup>	
San Marino (California, U.S.A.) Huntington Library MS. HM 268 MS. HM 936 MS. HM 937	f. 1	f. 43 <sup>vo</sup>	f. 142	
Washington D.C. (U.S.A.) Library of Congress MS. Rosenwald Collection No. 427		f. 63	f. 176 <sup>vo</sup>	

【資料2】 *De Casibus Virorum Illustrium* (原典) の記述：

Mihi post pausillum requiei iam calamum resumentum horridum monstrum illud, rerum ministra mortalium Fortuna, affuit. O Deus bone, quam grandis illi *statura*, quam admirabilis *forma*! Non inficiar, prospiciens timui. Nam ardentes minacesque illi erant *oculi*, *facies* torva, *capillitium* multiplex per ora pendulum, *manus*, credo, centum et *brachia* totidem, varia *vestis* et ferrea *vox*; quibus tamen incederet *pedibus* vidisse non potui. (イタリックは筆者)

【大意】 暫く休息した後、ペンを手にして(第六巻を)書き始めようとしたまさにその時、私の面前に世俗物資の管理者である(話題の)恐ろしい怪物ともいえる運命の女神が出現しました。おお、善なる神様、彼女は何と背が高く、何と不思議な姿なのでしょう！私は害されることはないと思うが、恐ろしくてじっと眺めることはできませんでした。彼女の両目は煌めいて威嚇的であり、顔は厳しく、髪の毛は幾重にも巻いて口元に垂れています。手は百本あり、腕も同数あるようです。衣装は多種の色からなり、耳障りな声音の持ち主です。残念ながら、彼女が(足を使って)歩いてきたのかどうか分かりませんでした。

【資料3】 *Des cas des nobles hommes et femmes* (仏語訳) の記述：

Fortune qui est vng hydeux monstre et qui comme chamberiere donne et depart aux hommes et aux femmes les bienheuretez mondaines. Si vint deuant moy puis que ie qui mestoye vng tantet repose prenoye ma plume apres la fin de mon cinquiesme liure pour commencer le sixiesme. Ie qui fuz esbahy de lymage de fortune me escriay a dieu qui est le donneur des vrays biens. Et se aucun me demande quelle fut ma sentence apres ce que ieuz aduisee la figure de fortune. Ie respons que ie eux grant paour quant ie droitement regarday la grant *estature* et la merueilleuse *facon* du corps d'elle. Car elle auoit les *yeulx* ardans et sembloit que ilz menassassent ceulx quelle regardoit/ fortune auoit la *face* cruelle et horrible/ elle auoit ses *cheueulx* espes/ longs et pendans sur sa bouche. Ie croy que fortune en son corps auoit cent *maines* et autretant de *bras* pour donner & pour tollir aux hommes les biens mondains et pour abatre en bas & pour leuer en hault les hommes de ce monde. Fortune auoit *robe* de maintes et diuerses couleurs. Car nul homme ne la congnoist. Fortune auoit la *voix* si aspre & si dure quil sembloit que elle eust bouche de fer/ pource que elle menasse tous les plus grans du monde/ et si met ses menasses a effect. Ie aduisay les parties du corps de fortune. Et toutesfois ie ne peuz appercevoir ne congnoistre les *piez*/ parquoy elle alloit.

(イタリックは筆者)

【大意】 運命の女神は恐ろしい怪物で、侍女のように男性にも女性にも世俗物資を分配します。第五巻を書き終ってしばらく休息し、第六巻を書き始めようとペンを手にした時でした。私は(出現した)運命の女神の姿に驚いて真の物資を施す神に救いを求めて叫び、彼女の姿を見た時の感想を自問しました。背が高く不思議な姿の彼女を見た時、私はとても恐れていたことを認めます。というのは、彼女の両目は煌めき、目にする者を威嚇するように見え、顔は厳しくて恐ろしく、髪の毛は長くて口元まで垂れていたからです。世俗物資を人に与えては取り戻すためにあるいは俗人を高く持ち上げては低く転落させるために、彼女の身体には百本の手と同数の腕があるのだと思いました。彼女の衣装は多種多様な色からできています。これは彼女の存在を気付かせるためです。彼女の声音はひどく耳障りであり、高貴な者たちを威嚇するために鉄の口を持っているようです。実際に、彼女は(私を)そのように威嚇しました。私は彼女の身体を観察しましたが、残念ながら、彼女の足を見ることはできませんでした。

【資料4】 *Fall of Princes* 『王侯の没落』の記述：

In his studie allone as Bochas stood,  
His penne on honde, of sodeyn auenture  
To remembre he thouhte it ded hym good,  
How **bat** no man may hymself assure  
In worldli thynges fulli to recure  
Grace of Fortune, to make hir to be stable,  
Hir dayli chaungis been so variable.

She braideth euer on the chaunteplure:  
Now song, now wepyng, now wo, now gladnesse,  
Now in merthe, now peynis to eendure,  
Now liht, now heuy, now bittir, now suetnesse,  
Now in trouble, now free, now in distresse,  
Shewyng to vs a maner resemblaunce,  
How worldli welthe hath heer non assuraunce.

Whil Bochas pensiff stood sool in his librarie  
With cheer oppressid, pale in his visage,  
Sumdeel abasshed, alone & solitarie,  
To hym appered a monstrous ymage,  
Partid on tweyne of colour & corage,  
Hir riht[e] side ful of somer flours,  
The tothir oppressid with wyntres stormy shours.

Bochas astonid, feerful for to abraide  
Whan he beheeld the wonderful figure  
Of Fortune, thus to hymself he saide:  
"What may this meene? is this a creature  
Or a monstre transfoormyd ageyns nature,  
Whos brennyng eyen sparklyng of ther liht  
As doon sterris the frosti wyntres niht?"

And of hir cheer[e] ful good heed he took,  
Hir face seemyng cruel & terrible,  
And bi disdeyn[e] manacyng of look,  
Hir her vntressid, hard, sharp & horrible,  
Froward of shappe, lothsum & odible.  
An hundred handis she hadde on ech part  
In sondri wise hir giftes to depart.

Summe off hir handis lefft up men aloffte  
To hih estat of worldli dignite,  
Anothir hand griped ful vnsoffte,

ボッカッチョは一人書斎で  
ペンを手にしていると、  
浮世にて運命の女神からの施しを有り余るほど確保したり、  
4 日々流浪しているのに、  
彼女を特定の場所に逗留させることなど、  
誰も確信できないことを  
物語るのは為になるとふと思いました。

8 彼女はとにかく泣き上戸のようです。  
歌ったかと思えば泣き、悲しんでいるかと思えば喜び、  
はしゃいでいるかと思えば苦しみに耐え、  
陽気と思えば憂鬱で、苦々しいかと思えば愛らしく、  
12 困っているかと思えば呑気で、そうかと思えば悩んでいます。  
如何に世俗の富はこの世でははかないものか、  
我々に一種の観念を呈示しています。

ボッカッチョは一人書斎にいて、物思いにふけり、  
16 沈鬱な面持で青ざめ、  
少々めいつていると、  
彼の面前に姿と心が二つに分かれた  
怪物が出現しました。  
20 彼女の右側は夏の花々に満ち溢れ、  
他方の側は冬の嵐に打ちのめされています。

運命の女神の不思議な姿を見た時、  
ボッカッチョは驚いて、恐ろしさのあまり言葉を出せず、  
24 次のように独り言を言いました。  
「これは何を意味するのか。生き物なのか、  
それとも自然に逆らって変形した怪物なのか。  
霜降る冬の夜空に輝く星々のように  
28 その両目は燃え盛るように煌めいている。」

彼は彼女の顔に注意を払いました。  
顔は残酷で恐ろしく、  
顔つきは相手を見下して威嚇的で、  
32 ざんばら髪でかたく尖っていて恐ろしく、  
悪意に満ちた姿で、むかつくような不快感を与えます。  
さまざまな方法で贈り物を分配するために、  
左右には百本の手がありました。

36 人々を高々と持ち上げて  
世俗の高貴な地位に上らせる手もあれば、  
きつく握り締めて

轟：『名士列伝』写本群における運命の記述と細密画

- Which cast another in gret aduersite:  
Gaff oon richesse, anothir pouerte,  
Gaff summe also bi report a good name,  
Noised anothir of sclaudre & diffame.
- Hir habit was of manyfold colours:  
Wachet bleuh of feyned stedfastnesse,  
Hir gold allaiid like sonne in wattri shours.  
Meynt with liht greene for chaung & doubilnesse.  
A pretens red: dreed meynt with hardynesse;  
Whiht for clenness, lik soone for to faille;  
Feynt blak for moornyng, russet for trauaille.
- Hir colours meynt of wollis mo than oon;  
Sumwhile eclipsed, sumwhile she shon briht.  
Dulle as an asse whan men hadde haste to gon,  
And as a swalwe gerissh of hir fliht,  
Tween slouh & swift; now crokid & now vpriht,  
Now as a crepil lowe coorbid doun,  
Now a duery and now a champioun.
- Now a coward, durst nat come in pres,  
And sumwhile hardi as leoun;  
Now lik Ector, now dreedful Thersites,  
Now was she Cresus, now Agamenoun,  
Sardanapallus off condicioun;  
Now was she mannyssh, now was she femynyne,  
Now coude she reyne, now koude she falsli shyne.
- Now a mermaide angelik off face,  
A tail behynde verray serpentyne,  
Now debonaire, now froward to do grace,  
Now as a lamb trefable & benigne,  
Now lik a wolff of nature to maligne,  
Now Sirenes to synge folk a-slepe  
Til Karibdis drowne hem in the deepe.
- Thus Iohn Bochas consideryng hir figure,  
Al hir fetures in ordre he gan beholde,  
Hir breede, hir heihte, hir shap & hir stature,  
An hundrid handis & armys ther he tolde:  
Wheroff astonid, his herte gan to colde;  
And among alle hir menbris euerichon,  
He sempte she hadde no feet upon to gon.
- 人々を逆境に陥れる手もありました。  
40 ある者には富を与え、他の者には貧乏籤<sup>くじ</sup>をひかせ、  
ある者には美名を轟かせ、  
他の者には恥と悪名を吹き鳴らしました。
- 彼女の衣装はさまざまな色をしていました。  
44 見せかけの不動性を示す薄い空色、  
雨にけぶる太陽のようにうすぼけた金色、  
変動と二面性を表す薄緑が混ざっています。  
苦悩と恐怖をまじえた薄赤色、  
48 沈む太陽のように清浄さを表す白色、  
悲しみを表すうすぼけた黒、苦勞を表すあずき色。
- 彼女の衣装は一筋ならぬ毛糸で織られています。  
暗くなっているかと思えば明々と輝きます。  
52 急いで行きたい時、ロバのように鈍<sup>のろ</sup>く、  
時にはゆっくりと時には素早く、燕のように気ままに  
飛び回ります。うずくまったかと思えば立ち上がり、  
そうかと思えばびっこのように背中を曲げてうずくまり、  
56 小人のようかと思えば戦士のようになります。
- 臆病者になり、人前に出ないかと思えば、  
ライオンのように勇敢になります。  
ヘクトールのようなかと思えば恐ろしいテルシーテスになり、  
60 クロイソスかと思えばアガメムノーンで、  
性格はサルダナパラスになります。  
男みたいかと思えば女性らしくなり、  
雨のような涙を流すかと思えば偽って照り輝きます。
- 顔は天使のようですが、  
まさに蛇のような尾鰭を持つ人魚で、  
施を与えるに愛想がよいかと思えばつむじを曲げ、  
子羊のようにおとなしく優しいかと思えば、  
68 狼のような性格に様変わって悪意を抱き、  
そうかと思えばセイレーンのように美しい歌声で人々を眠らせ  
カリュプデイスの餌食にします。
- このようにボッカッチョは彼女の容姿を観察し、  
72 順々に彼女の容貌、  
肩幅、背丈、姿形をじっくり見て、  
百本の手と腕を数えました。  
そのことに驚いて、寒気立ちました。  
76 彼女の身体の中なかで  
足はないように思えました。

【資料5】運命の女神の容姿描写に関するテキストの比較

	ボッカッチョの描写	プルミエフェの描写	リドゲイトの描写
背 丈	高い grandis...statura	高い la grant estature	*小人のようかと思えば 戦士のようになる (1.56) [伸縮自在ということ]
姿	異様な姿 admirabilis form	異様な姿 la merueilleuse facon	*姿と心が二つに分離 (1.18) *右側は夏の花々に満ち溢れ、他方の側は冬の嵐に打ちのめされている (11.20 - 21) *悪意に満ちた姿 (1.33)
目	両目は煌めいて威嚇的 ardentes minacesque ...oculi	両目は煌めき、目にする者を威嚇するように思える les yeulx ardans et sembloit que ilz menassassent ceulx quelle regardoit	*両目は燃え盛るように煌めいている (1.28)
顔 顔つき	厳しい facies torva	厳しくて恐ろしい la face cruelle et horrible	*顔は残酷で恐ろしい (1.30) *顔つきは相手を見下して威嚇的 (1.31)
髪の毛	幾重にも巻いて口元に垂れている capillitium multiplex per ora pendulum	長くて口元まで垂れている ses cheueulx espes/ longs et pendans sur sa bouche	*ざんばら髪でかたく尖っていて恐ろしい (1.32)
手・腕	手は百本あり、腕も同数 manus...centum et brachia totidem	百本の手と同数の腕 cent mains et autretant de bras	*左右には百本の手がある (1.35) *百本の手と腕を数える (1.74)
衣 装	多種の色からなる varia vestis	多種多様の色からできている robe de maintes et diuerses couleurs	*さまざまな色をしている：薄い空色、うすばけた金色、薄緑、薄赤色、白色、うすばけた黒、あずき色 (11.43 - 49) *一筋ならぬ毛糸で織られている (1.50)
声	耳障り ferrea vox	ひどく耳障り la voix si aspre & si dure	*セイレーンのように美しい歌声で人々を眠らせる (1.69)
足	確認不足 incederet pedibus vidisse non potui	見ることはできなかった ne congnoistre les piedz/ parquoy elle alloit	*足はないように思えた (1.77)



【資料6】細密画に描かれた運命の女神の容姿の特徴

	姿	目	顔	髪の毛	手・腕	衣装の色	足	その他
アルセナル図書館 MS.5192, f.188 <sup>vo</sup>		Boccaccio に 視線を向ける	白色で表情は穏やか	見えない	2本	多色 (紺, 白)	見えない	帽子を着用
アルセナル図書館 MS.5193, f.229		布で目隠し されている	白色で表情は穏やか	結ってある	12本	多色 (赤, 白, 黒, 緑, 金, 青)	見えない	王冠を被っている, 背中に翼がある
パリの国立図書館 MS. Fr.127, f.184		Boccaccio に 視線を向ける	肌色で表情は穏やか	巻毛で長く肩 まで垂れている	10本	多色 (紺, 赤, 白, 金の横縞模様)	見えない	帽子を着用
パリの国立図書館 MS. Fr.130, f.233 <sup>vo</sup>		布で目隠し されている	肌色で表情は穏やか	長く肩まで 垂れている	2本	赤一色	ある (存在確認)	
パリの国立図書館 MS. Fr.229, f.221		Boccaccio に 視線を向ける	肌色で表情は穏やか	長く胸元まで 垂れている	8本	多色 (薄茶, こげ茶, 左に白い斑点) 左右に 分かれ, 左に緑き接ぎ	見えない	
パリの国立図書館 MS. Fr.230, f.156		Boccaccio に 視線を向ける	表情がかたい	長く肩まで 垂れている	肘の部分から 6本	多色 (赤, 青)	見えない	
パリの国立図書館 MS. Fr.597, f.96 <sup>vo</sup>		Boccaccio に 視線を向ける	白と黒の二つの顔 (彼に白い方を向ける)	長く肩まで 垂れている	2本	多色 (赤, 青, 白)	見えない	王冠を被っている
パリの国立図書館 MS. Fr.16994, f.195 <sup>vo</sup>		Boccaccio に 視線を向ける	肌色で表情は穏やか	結ってある	7本	多色 (薄青い生地に 金と紺の横縞模様)	見えない	王冠を被っている
パリの国立図書館 MS. Fr.16995, f.196 <sup>vo</sup>		盲目ではない	しかめっ面 (彼に背を向けている)	長く肩まで 垂れている	2本	薄紫一色	見えない	彼女の左側の地面には 固定された車輪がある
サント=ジュヌス ヴィエ ーヴ図書館 MS.1128, f.196		Boccaccio に 視線を向ける	肌色で表情は穏やか	長く腰の辺 りまで垂れ ている	腕は2本 (衣装 金体に10本の 手が散らばる)	多色 (あずき色の生 地に緑, 白, 灰色の 横縞模様)	見えない	
バイエルン州立図書館 MS. Gall.6, f.200 <sup>vo</sup>		Boccaccio に 視線を向ける	色が黒ずんで 表情が厳しい	長く風になび いて乱れている	6本	多色 (うすぼけた赤 と白)	見えない	王冠を被っている, 左手で4人の人像 を配した車輪のクラシクを回している
アウグスト侯爵図書館 MS. Guelf. A.3. Aug.2 <sup>o</sup> f.208	身体が白と黒で 左右に分裂 (手 は両方とも白)	Boccaccio に 視線を向ける	表情は穏やか (右半分が白色, 左半分が黒色)	長く足元まで 垂れている	2本	多色 (青, 茶色)	見えない	宝冠を被っている, 彼女の後ろには人 像を配した大きな車輪がある (縁は梯 子状)
ジュネーヴ大学図書館 MS. Fr.190, f.30 <sup>vo</sup>		布で目隠し されている	表情は穏やか	長く胸元まで 垂れている	13本	多色 (薄赤色の生地に赤, 白, 金, 青の横縞模様)	見えない	
ジュネーヴ大学図書館 MS. Fr.191, f.181 <sup>vo</sup>		盲目ではない (彼を数回み)	表情は穏やか	長く背中に垂 れている	2本	多色 (赤, 白, 金)	見えない	王冠を被っている
H.Y. Thompson XCI f.170 <sup>vo</sup>		Boccaccio に 視線を向ける	表情は穏やか	左右にふくら ませている	2本	白黒写真での確認 のために識別不可能	見えない	宝冠を被っている, 彼女の後ろには人像を 配した大きな車輪がある (縁は梯子状)
ハンター博物館 MS.208, f.218 <sup>vo</sup>	身体が白と黒で 左右に分裂 (手 は両方とも白)	Boccaccio に 視線を向ける	白と黒の二つの顔 (彼に黒い方を向ける)	見えない	2本	多色 (赤, 白)	見えない	黒い帽子を着用
ハンター博物館 MS.372, f.1		Boccaccio に 視線を向ける	肌色で表情は穏やか	見えない	2本	多色 (赤, 白, 黒)	見えない	先の尖った帽子を着用
大英図書館 MS. Add.35321, f.180	身体が白と黒で 左右に分裂 (手 は両方とも白)	Boccaccio に 視線を向ける	白と黒の二つの顔 (彼に黒い方を向ける)	見えない	2本	多色 (赤, 白, 緑)	見えない	黒い帽子を着用
大英図書館 MS. Harley 621, f.217		Boccaccio に 視線を向ける	表情は穏やか	長く腰の辺り まで垂れている	2本	多色 (薄茶, 赤, 青, 白)	見えない	王冠を被っている, 右手で 車輪のクラシクを回している
大英図書館 MS. Royal 14 E. V. f.291		Boccaccio に 視線を向ける	肌色で表情は穏やか	長く足元まで 垂れている	6本	多色 (右半分が青, 左半 分が緑; 袖に金, 薄赤色)	見えない	青い帽子を着用, 首飾りを着用

■ 『名士列伝』 写本群における運命の記述と細密画

	姿	目	顔	髪	手・腕	衣装の色	足	その他
大英図書館 MS. Royal 20 C IV. f. 198		Boccaccio に 視線を向ける	表情がかたく 厳しい	長く肩まで 垂れている	8本	多色 (青い生地に赤 白、金の横縞模様)	見えない	王冠を被っている
ニューヨークのコレク ション F. Kerttaneh. not foliated		Boccaccio に 視線を向ける	表情は穏やか	結っている	7本	白黒写真での確認 のために識別不可能	見えない	王冠を被っている 背中に翼がある
モーガン図書館 MS. G. 35. f. 205	身体が白と黒で 左右に分裂 (手 は両方とも白)	Boccaccio に 視線を向ける	白と黒の二つの顔 (彼に白い方を向ける)	見えない	2本	多色 (赤、白、金)	見えない	左の尖った帽子を着用。右手に王杖。左手で4 人の人像を配した車輪のクラウンを回している
モーガン図書館 MS. M. 343. f. 35	上半身像しか 見られない	Boccaccio に 視線を向ける	表情は穏やか	長く肩まで 垂れている	6本	青色 (上空の青色 に同化)	見えない (下半身がない)	
ローゼンバツハ博物 館・図書館 MS. 439/16. f. 146 <sup>vo</sup>	身体が左右に分 裂し、左半分が 緑色	Boccaccio に 視線を向ける	表情がかたい	長く腰の辺り まで垂れている	腕は2本、 数多くの手	衣装を纏っている ようには見えない (存在確認)	ある (存在確認)	
ハンティントン図書館 MS. HM 936. f. 142		Boccaccio に 視線を向ける	肌色で表情は穏やか	長く肩の辺り まで垂れている	2本	多色 (青い生地で 袖、襟が白)	見えない	王冠を被っている。背中に翼がある。両手で車輪 を抱え、床に座っているように見える
ワシントンの国会図書 館 MS. Rosenwald Collection No. 427. f. 176 <sup>vo</sup>		Boccaccio を 横睨み	表情がかたい (口元は赤い)	長く乱れて腰の 辺りまで垂れて いる	9本 (2本は肘の 部分から)	多色 (赤、青、金、 薄紫)	見えない	

轟：『名士列伝』写本群における運命の記述と細密画

【資料7】細密画に描かれたボッカッチョの様相

[注：【資料6】と同じ順序なので図書館名と博物館名は省略]

	椅子の有無	書き物机の有無	写本の存在	ペンの有無	姿勢 (座る／立つ)	視線	その他の姿勢	対談への配慮	彼のいる場所
MS. 5192 f.188 <sup>vo</sup>	あり	なし	なし	なし	椅子に座っている	運命の女神	両手を持ち上げて話す身振り	あり	部屋の中
MS. 5193 f.229	あり	あり	開いてある	袋に入れて机の上	椅子に座っている	運命の女神	左手を胸に当て祈る姿勢	なし	判断できない
MS. Fr.127 f.184	あり	あり	開いてある	なし	椅子に座っている	天井	左手を上げて祈る姿勢	なし	部屋の中 (棚に沢山の書物)
MS. Fr.130, f.233 <sup>vo</sup>	あり	あり	開いてある	左手に所持	椅子に座っている	運命の女神	斜め左後ろの運命に視線	なし	建物の外
MS. Fr.229, f.221	なし	あり (後方)	なし	なし	立っている	運命の女神	右手の人差し指を運命に向ける	あり	部屋の中
MS. Fr.230, f.156	あり	あり	あり (床に落下)	袋に入れて机の上	椅子に座っている	運命の女神	左手を上げて反り返った格好	なし	部屋の中
MS. Fr.597 f.96 <sup>vo</sup>	あり	あり	開いてある	なし	椅子に座っている	運命の女神	両手を広げて驚いた格好	なし	ロジアの中
MS. Fr.16994 f.195 <sup>vo</sup>	あり	あり	開いてある	右手に所持	椅子に座っている	運命の女神	左手を固く握った姿勢	なし	部屋の中
MS. Fr.16995 f.196 <sup>vo</sup>	あり	あり	開いてある	右手に所持	椅子に座っている	写本	物語を書く姿勢 左手にナイフ	なし	花々の咲く地面
MS. 1128 f.196	あり	あり	開いてある	右手に所持	椅子に座っている	運命の女神	左手を運命に向ける	あり	部屋の中
MS. Gall.6 f.200 <sup>vo</sup>	あり	あり	開いてある	なし	椅子に座っている	運命の女神	腕組み (相手の話を聞く姿勢)	あり	ロジアの中
MS. G.A.3. Aug.2 <sup>o</sup> f.208	あり	なし	なし	なし	椅子に座っている	運命の女神	両手を持ち上げて話す身振り	あり	ロジアの中
MS. Fr.190 f.30 <sup>vo</sup>	あり	あり (折り畳式台)	なし	なし	椅子に座っている	運命の女神	右手を持ち上げて話す身振り	あり	緑の地面
MS. Fr.191 f.181 <sup>vo</sup>	あり	あり	開いてある	右手に所持	椅子に座っている	運命の女神	ペンを写本に置いた姿勢	なし	ロジアの中
Thompson XCI f.170 <sup>vo</sup>	あり	あり	開いてある	右手に所持	椅子に座っている	運命の女神	膝に写本を置いた姿勢／左手は話す身振り	あり	ロジアの中
MS. 208 f.218 <sup>vo</sup>	あり	なし	なし	なし	立っている	運命の女神	右手の人差し指を運命に向ける 左手に巻物	あり	ロジアの中
MS. 372 f.1	なし	なし	なし	なし	立っている	運命の女神	両手を持ち上げて話す身振り	あり	建物の中
MS. Add.35321 f.180	なし	なし	なし	なし	立っている	運命の女神	右手の人差し指を運命に向ける 左手に巻物	あり	城外の緑の丘
MS. Harley 621 f.217	あり	あり	開いてある	袋に入れて机の上	立っている	運命の女神	左手を運命に向ける／右手に巻物	あり	ロジアの中
MS. Royal 14 E V f.291	あり	あり	開いてある	なし	椅子に座っている	運命の女神	写本の上に両手を置いた姿勢	あり	建物の中
MS. Royal 20 C IV f.198	あり	あり	開いてある	右手に所持	椅子に座っている	運命の女神	左手にナイフ	なし	部屋の中
F. Kettaneh Collection	あり	あり	開いてある	なし	椅子に座っている	運命の女神	少し反り返った格好	なし	判断できない
MS. G.35 f.205	あり	あり	開いてある	右手に所持	椅子に座っている	写本	物語を書き始める姿勢	なし	左下の部屋の中
MS. M.343 f.35	あり	あり	開いてある	右手に所持	椅子に座っている	上空	物語を書き始める姿勢	なし	小高い緑の丘
MS. 439/16 f.146 <sup>vo</sup>	あり	あり	開いてある	なし	椅子に座っている	床	左肘を付いて物思いに耽る姿勢	なし	部屋の中 (棚に沢山の書物)
MS. HM 936 f.142	なし	なし	なし	なし	立っている	運命の女神	両手を合わせて祈る姿勢	なし	部屋の中
MS. Rosenwald Collection No.427	あり	あり	開いてある	なし (運命に奪われる)	椅子に座っている	運命の女神	右手の人差し指を運命に向ける 左手に書物	あり	部屋の中 (棚に沢山の書物)

## 【資料8】運命の女神の容姿に関するテキストの記述と細密画の関連性

	姿	目	顔	髪の毛	手・腕	衣装の色	足	翼
アルセナル図書館 MS.5192, f.188 <sup>vo</sup>			×	×	×	○		—
アルセナル図書館 MS.5193, f.229		×	×	△	○	○		—
パリの国立図書館 MS.Fr.127, f.184			×	○	○	◎		—
パリの国立図書館 MS.Fr.130, f.233 <sup>vo</sup>		×	×	○	×	×	×	—
パリの国立図書館 MS.Fr.229, f.221			×	○	○	○		—
パリの国立図書館 MS.Fr.230, f.156			○	○	○	○		—
パリの国立図書館 MS.Fr.597, f.96 <sup>vo</sup>			×	○	×	○		—
パリの国立図書館 MS.Fr.16994, f.195 <sup>vo</sup>			×	△	○	◎		—
パリの国立図書館 MS.Fr.16995, f.196 <sup>vo</sup>			○	○	×	×		—
サント＝ジュヌヴィエーヴ図書館 MS.1128, f.196			×	○	△	◎		—
バイエルン州立図書館 MS.Gall.6, f.200 <sup>vo</sup>			○	○	○	○		—
アウグスト侯爵図書館 MS.Guelf.A.3.Aug.2 <sup>o</sup> , f.208	○		×	○	×	○		—
ジュネーヴ大学図書館 MS.Fr.190, f.30 <sup>vo</sup>		×	×	○	○	◎		—
ジュネーヴ大学図書館 MS.Fr.191, f.181 <sup>vo</sup>			×	○	×	○		—
H.Y.Thompson XCI, f.170 <sup>vo</sup>			×	○	×	—		—
ハンター博物館 MS.208, f.218 <sup>vo</sup>	○		○	×	×	○		—
ハンター博物館 MS.372, f.1			×	×	×	○		—
大英図書館 MS.Add.35321, f.180	○		○	×	×	○		—
大英図書館 MS.Harley 621, f.217			×	○	×	○		—
大英図書館 MS.Royal 14 E V, f.291			×	○	○	○		—
大英図書館 MS.Royal 20 C IV, f.198			○	○	○	◎		—
Francis Kettaneh Collection			×	△	○	—		—
モーガン図書館 MS.G.35, f.205	○		×	×	×	○		—
モーガン図書館 MS.M.343, f.35	○		×	○	○	×		—
ローゼンバッハ博物館・図書館 MS.439/16, f.146 <sup>vo</sup>	○		○	○	△	?	×	×
ハンティントン図書館 MS.HM 936, f.142			×	○	×	○		—
ワシントンの国会図書館 MS.Rosenwald Collection			○	○	○	○		—

\*姿について：左右に身体の分裂が見られるものと上半身像しか見られないものを「異様な姿」とみなして○印を付けた。

\*目について：布で目隠しされているものに×印を付けた。

\*顔について：白色ないし肌色で穏やかなものとボッカッチョに白い方を向けているものに×印、表情がかたくて厳しいものと彼に黒い方を向けているものに○印を付けた。

\*髪の毛について：帽子の着用のために見えないものに×印、結ってあるものに△印、長いものに○印を付けた。

\*手と腕について：手が二本だけのものに×印、腕が二本なのに手の数が多いものに△印、手が三本以上あるものに○印を付けた。

\*衣装について：単色だけのものに×印、多色からなるものに○印、特に横縞模様のものに◎印、衣装を纏っているように見えないものに？印を付けた。また白黒写真により確認できなかったものに—印を付けた。

\*足について：存在が明確に確認できるものに×印を付けた。

\*翼について：『王侯の没落』写本だけが対象。描かれていないので×印、残りの項目には—印を付けた。

轟：『名士列伝』写本群における運命の記述と細密画

【資料9】ボッカッチョの様相に関するテキストの記述と細密画の関連性

		椅子に 座る	書き物机 に向かう	ペンを手 に所持	開かれ た写本	祈る 姿勢	運命の女神 に視線	驚きの反応 手の所作／反り返り	物思い に耽る
運命の女神 が出現した瞬間	MS. 5193	○	○	×	○	○	○		—
	MS. Fr.127	○	○	×	○	○	○		—
	MS. Fr.130	○	○	○	○		○		—
	MS. Fr.230	○	○	×	○		○	○	—
	MS. Fr. 597	○	○	×	○		○	○	—
	MS. Fr.16994	○	○	○	○		○		—
	MS. Fr.16995	○	○	○	○		×		—
	MS. Fr.191	○	○	○	○		○		—
	MS. Royal 20 C IV	○	○	○	○		○		—
	Kettaneh Collection	○	○	×	○		○	○	—
	MS. G.35	○	○	○	○		×		—
	MS. M.343	○	○	○	○		○		—
MS. 439/16	○	○	×	○		×		○	
出現＋対談	MS. 1128	○	○	○	○		○		—
	MS. Gall.6	○	○	×	○		○		—
	Thompson XCI	○	○	○	○		○		--
	MS. Harley 621	×	○	×	○		○		—
対談	MS. 5192	○	×	×	×		○		—
	MS. Fr.229	×	×	×	×		○		—
	MS.Guelf A.3.Aug.2 <sup>0</sup>	○	×	×	×		○		—
	MS. Fr.190	○	×	×	×		○		—
	MS. 208	×	×	×	×		○		—
	MS. 372	×	×	×	×		○		—
	MS. Add.35321	×	×	×	×		○		--
	MS. Royal 14 E V	○	○	×	○		○		—
	Rosenwald Collection	○	○	×	○		○		—
	MS. HM 936	×	×	×	×	○	○	—	

\* 「物思いに耽る」の項目は『王侯の没落』写本だけが対象。そのために残りの項目には一印を付けた。